

令和7年度「OUS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」 の自己点検・評価

1. プログラムの実施概要

本プログラムは、「データを読みとく」と「技術を読みとく（データサイエンス）」との2科目から構成されている。

今年度は「データを読みとく」を担当者延べ13名で、全13クラスを開講した。内訳は、表1を参照のこと。授業内容は、教科書¹⁾「データを読みとく」に基づいている。

表1：令和7年度「データを読みとく」担当者一覧

開講期	曜日	時限	担当者名	キャンパス	授業形態
秋	水曜	2	安田貴徳	岡山	対面
秋	水曜	2	奥村英則	岡山	対面
秋	水曜	2	平松直哉	岡山	対面
秋	水曜	2	大熊一正	岡山	対面
秋	木曜	1	柳貴久男	岡山	対面
秋	木曜	1	奥村英則	岡山	対面
秋	木曜	1	安田貴徳	今治	オンライン
秋	木曜	2	大熊一正	今治	オンライン
秋	木曜	3	塚常健太	岡山	対面
秋	木曜	3	奥村英則	岡山	対面
秋	木曜	3	平松直哉	岡山	対面
秋	木曜	3	安田貴徳	岡山	対面
秋	木曜	3	中川重和	岡山	オンライン

一方、「技術を読みとく（データサイエンス）」は担当者延べ9名で、全3クラスを開講した。内訳は、表2を参照のこと。集中講義形式、VOD中心のオンデマンド型授業で開講した。授業内容は、竹村彰通他編、「データサイエンス入門」²⁾を用い、それに準拠するビデオ教材、パワーポイント資料、Mylogでの小テストからなる。授業への質問には、MylogのQ&Aもしくはメールで即時回答している。さらに、よくある質問をまとめてHPにて公開している。

表 2：令和 7 年度「技術を読みとく（データサイエンス）」担当者一覧

開講期	担当者名	キャンパス
春	中川重和, 大熊一正, 奥村英則, 安田貴徳, 平松直哉	岡山
秋	中川重和, 大熊一正, 奥村英則, 安田貴徳, 平松直哉	岡山
秋	中川重和	今治

2. プログラムの履修状況

「データを読みとく」での履修者数は 659 名, 「技術を読みとく（データサイエンス）」では 679 名であり, 単位取得者はそれぞれ, 495 名, 381 名であった. 学部別履修状況を表 3, 表 4 に示す.

表 3：令和 7 年度「データを読みとく」の履修状況

学部	在籍者数	履修者	履修率	単位 取得者	取得率
理学部	1112	110	10%	79	72%
工学部	1250	152	12%	112	74%
情報理工学部	702	45	6%	36	80%
総合情報学部	17	2	12%	1	50%
生命科学部	515	58	11%	50	86%
生物地球学部	598	92	15%	71	77%
教育学部	272	13	5%	8	62%
経営学部	675	119	18%	82	69%
獣医学部	1205	55	5%	48	87%
AL コース	69	12	17%	7	58%
単位互換履修生/ 科目等履修生	1	1	100%	1	100%
合計	6416	659	10%	495	75%

表 4： 令和 7 年度「技術を読みとく（データサイエンス）」の履修状況

学部	在籍者数	履修者	履修率	単位 取得者	取得率
理学部	1112	88	8%	40	45%
工学部	1250	103	8%	52	50%
情報理工学部	702	106	15%	60	57%
総合情報学部	17	0	0%	0	0%
生命科学部	515	52	10%	35	67%
生物地球学部	598	135	23%	75	56%
教育学部	272	6	2%	4	67%
経営学部	675	87	13%	47	54%
獣医学部	1205	94	8%	63	67%
AL コース	69	8	12%	5	63%
合計	6415	679	11%	381	56%

令和 7 年度の OUS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定者数は 124 名 である。学部毎の内訳を表 5 に示す。今年度より、プログラム認定者にはオープンバッジ³⁾ (図 1 参照) を授与する。

表 5： 学部別 OUS 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定者数

学部	認定者数
生物地球学部	39
理学部	15
工学部	20
経営学部	16
獣医学部	10
情報理工学部	14
生命科学部	7
AL コース	3
総計	124



図 1： オープンバッジ

3. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、教育推進機構教育開発センターにおいて学生の理解度を分析している。以下、自由記述部分の一部を抜粋して紹介する。

「データを読みとく」のアンケート（自由記述部分）から

- ・この講義で培った統計的な知識は、僕が勉強している熱統計力学にも応用できるため、数学的にも物理的にもいい勉強になりました。ありがとうございました。
- ・Zoomだけどリアルタイムの出席や課題などその場で参加していないと行けないものが多くてしっかりと授業も受けられたし、課題の難易度もすごく良かった
- ・いろいろな計算が出来るようになった
- ・自分の中で中々微分分野が苦手だったので少し手こずるところはありましたが、何とか授業を受けれて良かったです
- ・説明が分かりやすくしっかりと理解ができました。
- ・授業中でよく問題演習をしてそのあと解説するっていうかんじがただ講義だけで終わるのではなく、生徒に演習をさせて理解しているのかを生徒自身で確認できるのでよかったなと感じました。

「技術を読みとく（データサイエンス）」のアンケート（自由記述部分）から

- ・他の授業で習った回帰直線の復習やRを使ったデータ解析など、今後に役立つような講義だったと思います。
- ・IT化が進む現在でデータの知識や技能が必要になるときが来ると思ったので、授業を受けれてとても良かったです。
- ・授業を受けてみて、個人的に難しい項目もあったが、教科書などを参考にしながら理解していくことができた。技術とうまく共存して生活していこうと思った。
- ・最初のころの小テストmylogの使い方がわからず、提出できなかったのが残念でした。
- ・VODなので何回か小テストの提出を忘れてしまったけれど、高校で情報処理科に入っていて、データサイエンスについてより深く学びたかったのでこの授業を受けられて良かった。
- ・情報社会に必要な知識を学ぶことができた。
- ・この講義を受けて現代社会におけるデータサイエンスやデータ分析の基礎、データサイエンスの手法、コンピュータを用いた分析、データサイエンスの応用事例など多くのことが分かりました。今まで知らなかったことを多く知ることができたので良かったです。
- ・どこでも自分の受けたいときに受講できるのが良かったです。
- ・家で講義を受けれるところが楽で良かった
- ・数学で学習していなかったところを勉強出来たり、計算ソフトが多少扱えるよう

になった気がする。

・データを学ぼうとする関心意欲が高まりました。強いて言うならばYoutubeのリンクに飛ばば前の枠が消えてしまうのでできればその場で見れたらいいなと思いました。ありがとうございました。

4. 履修者数・履修率の向上に向けた計画

「データを読みとく」, 「技術を読みとく(データサイエンス)」のそれぞれに年度別履修者数を図 2, 図 3 に示す。

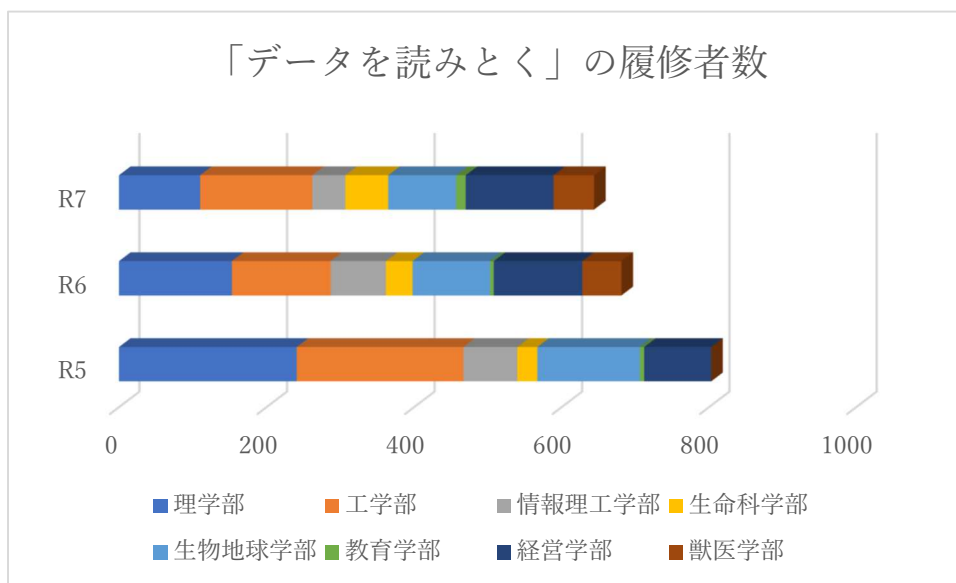


図 2: 「データを読みとく」の履修者数の経年変化

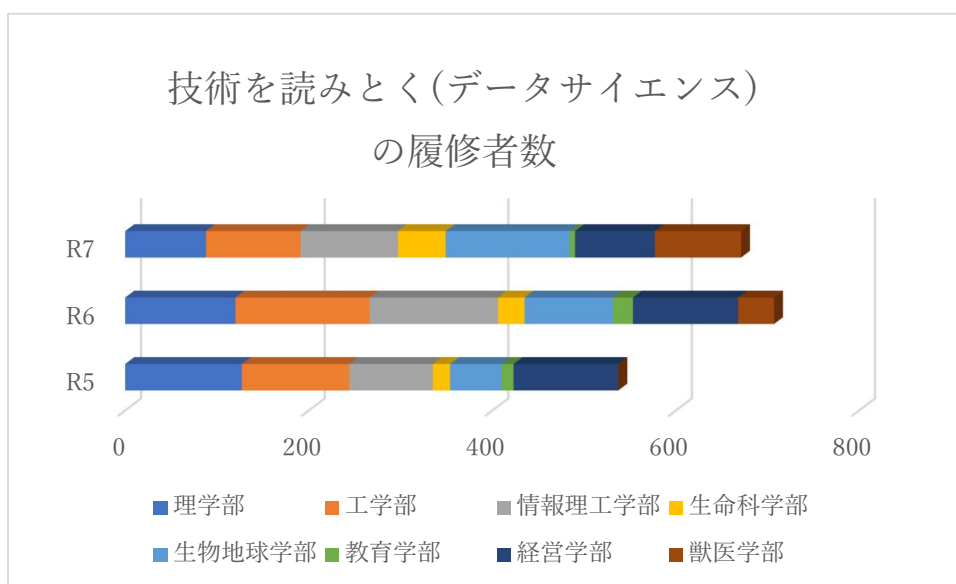


図 3: 「技術を読みとく (データサイエンス)」の履修者数の推移

5. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

本学が実施している卒業生キャリア状況調査を活用することにより、本教育プログラムを修了した卒業生の進路先や活躍状況を把握する予定である。

6. 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

2025年11月21日、岡山コンベンションセンターにて実施された OUS フォーラム¹において、「生成 AI を活用した大学基礎数学教材の作成（奥村英則,中川重和,大熊一正,安田貴徳,平松直哉）」と題してポスター発表を行った。

7. 数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ,学ぶことの意義」を理解させる

数理・データサイエンス・AI モデルカリキュラム（リテラシーレベル）の導入部分に準じた内容を展開し、例えば、生成系 AI（chatgpt など）の実例をもとに、AI 等がどのように活用をされているかを中心に好奇心を促す講義内容としている。取り上げる実例については、学生アンケート等を活用し、その内容について評価を実施する。

8. 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

OUS 数理・データサイエンス・AI 教育ワーキンググループは、学生アンケート及び OUS フォーラム参加企業からの意見を参考に、学生の「分かりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを提言する。それを受け、岡山理科大学全学評価・計画委員会 教育推進部会において検討をする。

参考文献:

- 1) 中川重和・森裕一・黒田正博・柳貴久男・安田貴徳・大熊一正・小野舞子：データを読みとく、学術図書出版社（2023）
- 2) 竹村彰通・姫野哲人・高田聖治 編：データサイエンス入門（第2版）、学術図書出版社（2021）
- 3) 一般財団法人 オープンバッジ・ネットワーク HP <https://www.openbadge.or.jp/>

¹ OUS フォーラム：本学研究者たちが持つ技術シーズを地域に紹介し産学官連携を推進するため、毎年開催しているフォーラム。